

● 隠岐たより

【寄稿】 元しまね産業振興財団顧問 酒井禮男 様
離島のユネスコ世界ジオパークとして注目されている隠岐の島は、黒曜石の原産地としても知られています。黒曜石は、溶岩が急速に冷却して出来る非晶質の火山ガラスで、灰黒色を呈し、貝殻状のわれ口を示しものが多く、旧石器時代から石器材料として重宝され、隠岐の島産黒曜石は中国地方北部の海岸地域や中央山岳地帯、一部は瀬戸内側にも運搬されていたことが判明しています。当時、隠岐の島から出雲の国（現在の島根半島）まで60キロメートルを丸木舟で苦勞して運んだ隠岐の人の勇気と冒険心は並々ならぬものであったと思います。現在、黒曜石は置物やアクセサリなどの土産品として利用されていますが、黒曜石を加熱処理するとガラス発泡バルーンとなるので、工業原料としての利用も期待できるのではないのでしょうか。

『元しまね産業振興財団顧問 酒井禮男様のプロフィール』
主に島根県の地下資源や地質等に広く精通され、今も島根県の産業振興に大きく活躍の場を広げておられます。



大久の黒島



浄土ヶ浦キャンプ場



夕方の西郷発電所



那久の灯台と島前

☆編集長松下より

「隠岐の島を訪れて時間を忘れたい」とお考えの方は、当編集部までご連絡ください。観光用パンフレットを郵送させていただきます。